

2025年2月20日（水）

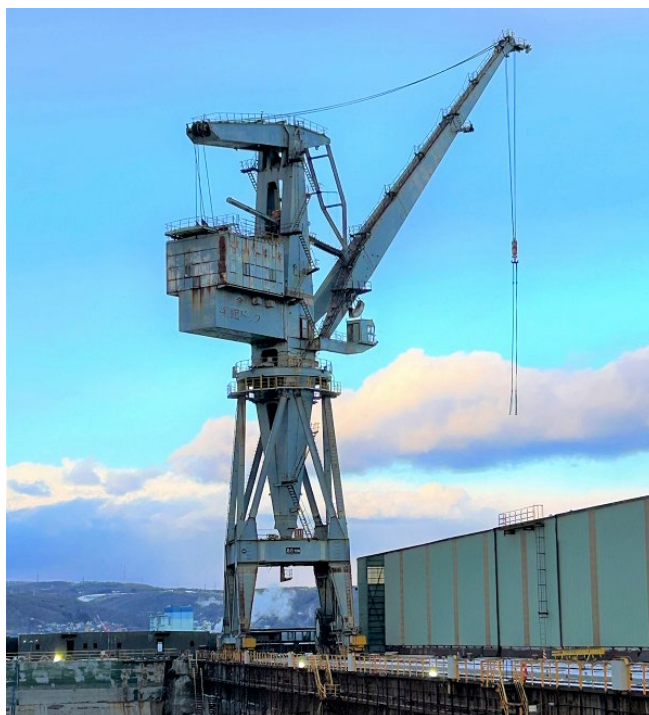
北海道新聞に当社室蘭製作所の記事が掲載されました

函館どつく株式会社（以下、当社）の室蘭製作所において、北海道新聞様による工場取材を受け、2月20日付同紙面地域版に設備計画の紹介記事が掲載されました。

記事では『室蘭製作所に新クレーン』との見出しで、現在稼働中の80トン吊ジブクレーンに替わり2026年8月に新たに導入する120トン吊ジブクレーンについて報じられております。

記事にもある通り、当社室蘭製作所で稼働中の80トン吊ジブクレーンは老朽化が進んだことから、同所としては約10年ぶりとなる更新を決定し併せて大型化を図ります。

これからも、当社が掲げる会社基本方針のもとESG（環境・社会・ガバナンス）の取組を推進し、地域社会との連携を強化してまいります。



現在稼働中の80トン吊ジブクレーン

（次ページに掲載記事を引用します）

**HAKODATE
DOCK**

北海道から世界へ。ここにしかない「ものづくり」。

室蘭製作所に新クレーン

函館どつく 最大120ト、来年8月

函館どつく（函館）室蘭製作所（祝津町）が2026年8月末、同製作所では最大となる、船舶などの大型部材に対応する120ト（ト）ぶりジブクレーンを導入することが19日、分かった。現在稼働中の80ト（ト）ぶりジブクレーンが老朽化しており更新する。設備投資額は10億円程度となる見通しで、同製作所では約10年ぶりの大規模投資となる。

10年ぶり大規模投資



現在の80トジブクレーンは1974年製造。高さ約50メートルで、可動式の「ブーム」と呼ばれる腕部分を立てると最大約70トンになる。主に「ブロック」と呼ばれる船体の主要部分や大型の産業機械、橋梁などを船の上に運び出す際に使っている。新たなクレーンは、高さ約60メートルでブームを立てると最大約90トンになる予定。

函館どつく室蘭製作所で現在使われている80トクレーン

定。クレーン骨格部分は10月から同製作所で製造し、来年夏の完成をもって供用開始する。

山本雅敏所長は新クレーンについて「さらに大型の部材を扱うことができ、室蘭製作所で製造する製品の幅が広がる」と期待する。

同製作所では2008年に新造船を再開し、数億円規模の設備を更新してきた。近年は円安や、代替船などの受注が増えたため、同社は22年度から黒字決算が続いている。好調な業績を背景に、室蘭の大型クレーンの更新を決めた。函館でも16〜20年に3台のジブクレーンを導入している。

現クレーンは、来年8月末以降、新クレーンを使って取り壊す予定。同製作所によると、来年夏ごろには、白鳥大橋や対岸から新旧2台のクレーンが並ぶ光景が見られるという。

（宮木友美子）

北海道新聞地域版 令和7年2月20日付より抜粋